



●北方圏講座 (2007年3月19日/北方圏センター会議室)

「青い光が見えたから」

16歳のフィンランド留学記



高橋 絵里香氏

(進行役を兼ねたコーディネーターは、北海道東海大学教授、川崎一彦氏。講師は映像を映しながら説明を行った。参加者の質問は匿名とした) 調査研究出版部)

ムーミンに惹かれて

川崎 皆さん、きょうはお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。北海道東海大学、川崎と申します。

きょう、なぜ私がコーディネーターを仰せつかったかは後でご説明をしますが、きょうの会の流れを最初にご説明して、早速、高橋絵里香さんのお話を伺いたいと思います。

まず、パート1が高橋絵里香さんのスピーチ、それからパート2が、

皆様方のご質問、それからコメント

をぜひ伺いして、これを多めに時間をとりたいと思います。それから、パート3がサイン会ということで、もしお求めになりたい方がおられましたら、高橋絵里香さんが直接サインをしてお求めいただく機会をつくりたいと思います。

私は役得といえますか、先に読ませていただくチャンスがあったのですが、これから高橋絵里香さんのお話を聞いていただく間に、この本、

2冊ほどありますので、回覧をさせていただきます。それからお話を聞くとわかるのですが、フィンランドに行こうと思いつかれたきっかけはムーミンなんですね。この本の中に出てくる欧文の書体はムーミン風を使っている。そこまでこだわっている体裁、デザインだそうです。これは回覧しますので、お話を聞いていただく間にぜひごらんいただきたいと思います。それでは早速、高橋絵里香さん、

よろしくお願います。

4年間の高校生活

高橋 皆さんこんばんは。高橋絵里香です。こんなにくさん集まっていたいて、本当に感激しております。

では、私の留学体験についてご説明したいと思います。

私は北海道の中学を卒業した後、2000年よりフィンランドへ移り住んでからこととして7年目になりま

す。その中でも最も大切な高校時代の4年間を原稿にまとめたものが、このたび講談社より刊行されました。きょうは私が生徒として体験したフィンランドの高校の様子をご紹介します。

まず、私がフィンランドの高校に留学することになった経緯を簡単にお話しします。

私が小学4年生のころ、フィンランドの作家、トーベ・ヤンソンの「たのしいムーミン一家」という本を読んで、それ以来フィンランドに興味を持つようになりました。それから、北海道フィンランド協会の方々のお力添えのおかげで、2000年8月、ロバニエミのリユセオンピスト高校に入学することができました。

ここで簡単に舞台となったロバニエミのまちのご説明をいたします。人口は約5万7,000人。面積は約8,000平方キロメートルで、一昨年から、ロバニエミ市は周囲のまちと合併したため、今ではヨーロッパ面積の広い市となっています。

それから、皆さんもご存じのように、ロバニエミは世界的に有名な観光都市で、ロバニエミにあるサンタクロース村には、毎年日本からもた

くさんの観光客が訪れています。

次に、私が4年間を過ごしたリユセオンピスト高校をご紹介します。母体となる学校が1908年に開校されましたので、来年、開校100周年を迎えることとなります。現在の位置には1951年に校舎が建設されました。校舎を設計したのは建築家のマヨル・ヤルビさんで、デザイン性のある校舎が話題になり、フィンランドの国内の新聞でも紹介されたことがあるそうです。

こちらがリユセオンピスト高校の校舎の中になります。レンガづくりの3階建てで、中が1階から3階まで吹き抜けになっています。右は3階から1階を見おろした写真になっているのですけれども、床の様子がしましまになっていて、カーブになっていておもしろくなっています。あと、休み時間などに生徒が集うテーブルなのですが、それも床の模様に沿ってくねくねと曲がっています。

私が高校生としていた時期、2000年から2004年までの間には、生徒数がおよそ700人いました。現在は多少減って、660人、650人ぐらいになっているかもしれません。教師は合計して50人ほ

ど。そのほかにも、事務職員が1名と、施設の管理をする管理人、それから掃除を担当する職員が数名います。

高校は単位制で、1年が5学期に分かれていて、毎学期、期末試験があり、その試験に合格すると単位を修得できるというふうになっています。そして、卒業までに最低75コース分の単位の修得が必要となっています。高校では1コースにつき1単位もらえる仕組みになっています。

こちらは、リユセオンピスト高校の教科の中でも必修のコースを含んだ必修科目のリストです。括弧の外に書いてある数字が教科が含んでいるコースの数で、括弧の中の数字は、その中でもだれでもとらなくてはならない必修のコースの数です。ごらんのように選択コースの数の方が必修のコースよりかなり多いので、生徒にはすくなく皆さんの選択肢があるということがわかると思います。

学年という枠がないので、個人がいつどのコースをとるか、自由に計画することができます。

左側が選択科目で、右側が少数派のための科目となっています。ごらんのように、選択科目には外国語が

たくさんあって、選択肢がとても豊富です。年によっては日本語が学べるときもありました。それから、フィンランド語を母国語としていない生徒のためのコースとして、外国人生徒のためのフィンランド語が用意されています。

それから、先ほどお見せした宗教という教科ですが、フィンランドの多くの人がキリスト教の中でもルーター派を信仰しているので、ルーター派ではなく、ギリシャ正教またはロシア正教を信仰している人たちのためには、それ専用のコースもあります。それから、無宗教を初め、他の人々には倫理学という教科が用意されています。私もこの倫理学を宗教のかわりにとっていました。このように、少数派の生徒のケアもしっかり行われています。

必修科目の必修コースを全部合わせても50に満たないので、少なくとも残りの25コースは生徒が本当に自由に選ぶことができます。

次に、フィンランド全国の高校に共通している制度についてご説明します。

入学試験はなし

まず、入学試験が高校にはありま



せん。中学校の成績によって可否が決まります。それから、高校の授業料や昼食費は税金で賄われているので、高校に通ってかかるのは教科書代と文房具代程度です。教科書は生徒たちの間で貸し借りが頻繁に行われていて、必要な人に使わなくなった教科書を安く売ったりもしているので、教科書代もそのように最低限に抑えることができます。

それから、単位制というのはフィンランドの高校すべてに共通している仕組みです。

それから、卒業する際には国の公式な高校卒業試験があり、それに合格すると卒業できるというふうになっています。先ほど言いました75コース分の単位と、それから高校卒業試験を合格していれば基本的にはいつでも卒業できるので、生徒が自分で卒業する時期を選ぶことができます。それでも入学してから3年後に卒業するのが一般的ですが、3年半や4年という選択をする人もすごく多いです。私もフィンランド語が最初のころは達者ではなかったのですが、私もそういった意味で4年間高校へ通うという選択をしました。

それから、教師の人事異動が原則的にはありません。それは、教育省

が現場の先生たちの判断ややり方に任せていて、先生たちがその学校の計画や運営をしているからだと思います。

校則もなし

それから、フィンランドの高校には基本的には校則がありません。休み時間などに校舎への出入りは自由で、部活動や掃除はありません。行事もとても少なく、たまにある行事も完全に自由参加になっています。それから、校則がないので服装の自由もあるので、私も髪の毛を真っ青に染めていた時期がありました。ですから、学校はあくまで生徒にとって勉強をする場所であり、生徒の生活を制限するものではないというところを、実際、生徒としていてすごく感じました。

それから、私がフィンランドの教育はどういうものかというふうに考えて思ったのは、自分で思考する力をはぐくむ教育だということです。実際、どんなことをして自分で思考する力をはぐくんでいるかというところ、次のような内容が挙げられると思います。

ディベート形式の授業

まず、ディベート形式の授業がとても多いです。国語や倫理などが特にそうなのですけれども、中には、1学期ほとんど教科書を使わないで、話し合いのみ、ディベートのみするところもあります。基本的に、三、四人の小グループで初め集まって、お互いの意見を述べ合って考えをまとめ、その後クラス全体で話し合うというような形がとられます。

小グループに分かれるといつても、グループで一つの意見を出すというわけではなく、その小グループの中に賛成派、反対派がいて決して構わないわけなのです。とにかく小グループの方が意見を出しやすいため、その後、まず小グループになって、その後、クラス全体で意見を出し合うというふうになっています。

それから、学校行事も生徒が企画運営をしています。先生はどちらかというと許可を与えるだけというようなポジションになっています。そういうことから自分の行動や発言に責任を持つことを生徒は学んでいくのだと思います。

私の考えるフィンランドの先生というものは、まず、授業スタイルが先生によって、同じ教科でも本当に大

きく異なっているということです。教科書をたくさん用いて授業を進める先生もいれば、独自の方法で、教科書はほとんど使わずに教える先生も数多くいます。

それから、先生一人一人がすごく個性的な感じがありました。要するに、正直で肩の力を抜いた先生がすごく多いなというふうに感じました。例えば、週末が近い金曜日になると生徒と一緒に喜んで先生がいたり、それから、引退まであと何日と楽しそうに数えている先生とかもいました。

それから、教師集団のチームワークがすごくいいなというのを、私は生徒として学校にいたのですから、私も、それでもすごく感じました。例えば、先生たちがお互いをすごく信用し合っている、そんな感じがすごく、生徒の目から見てもそう思いました。休日に国語の先生や心理学の先生と一緒にショッピングをしたりすることもある、何だかすごく、プライベートでも仲がいいところがあるんだなというふうに思いました。

何事も受けとめ、向き合う

次は、私が思うフィンランドの高

校生についてです。まず、何事も受けとめ、向き合うことを恐れない人間性を持っているというふうには私はすごく思いました。向き合うものは、自分自身であったり、過去であったり、現実であったり、友達など他人であったりすることもあるかと思いますが、そういうものと直面することを恐れないなというところを、横から見ていると思いました。前に進んでいくことを恐れないで、どんどん前にいく、そんな感じがしました。何だか、すごく勇敢な人たちだなというふうには見えています。

それから、表面的なものに惑わされず真実を直視する力が、高校生の時点でもう備わっているというふうにはすごく思いました。例えば、外国人の私に対しても、外国人とか留学生というレッテルを張られることもなく、最初から両手を広げて、物すごく暖かく受け入れてくれたので、本当に私の人間性だけを見て、外見が違うとか、人種が違うとか、そういうことは眼中にさえ入っていないというか、それぐらい、人を見抜く力を、生徒が、高校生一人一人が持っているんだというふうには思いました。

それから、高校生の友達がたくさんできて思ったのですけれども、余り夢について語らないなというふうには思いました。でも夢がないわけではなくて、将来の夢というのは人生計画の中をしっかり組み込まれていて、それは夢とは呼ばずに未来の計画というふうには呼んでいるというふうには気がつきました。

日本はどちらかというと、夢と現実を対義語のように使うこともありませんが、フィンランドでは、夢とは実現させるものなんだというふうには私は思いました。例えば、フィンランドでは、スポーツや音楽・美術など芸術系の力を伸ばそうとする人たちが多いのですけれども、そこで、例えばピアノが好きだったら、将来ピアノリストになったって食べていけないとか、そういうふうには考えないで、やりたいからやるんだというふうには思いました。夢と現実は常にともにあるもので、セットにして考えているんだなというふうには、私は友達の話聞いていて思いました。私はフィンランドの高校に留学して、自分が最も自分らしく生きられる場所を得ることができました。それはなぜかという点、フィンランドの高校には本当の自由があったから

なのではないかと私は思っています。まず、服装の自由があり、行動の自由があり、発言の自由があります。それは、でも規則的なことだけではないのです。以前の私を考えると、人の顔を気にして自分の気持ちや意見が言えなかったりということが多かったのですが、そういうところがフィンランドに行ってからではなくて、周囲にいる人たちが物すごく私を受け入れて、受けとめてくれるなというふうには感じていました。

それから、形にはそれほどこだわらない部分があるなというふうには思いました。それは意味があるのは真実や真相のみだと考えているからだと思えました。例えば、学生の服装の自由ですが、人間として立派かどうかということは、立派な格好をしているから立派だということではなくて、それは本当に外見で決まることではないということにフィンランドの人々は知っているといます。

一人一人がそういう自由を手に入れている、そして一人一人が自分を確立している、相手の自由も尊重できるのだと思います。そして、人々は、お互い違っているけれども協働できる、認め合い助け合うことができ

DISPLAY

展示・装飾・サイン・企画・製作

株式会社 **マルヒラ**

〒060-0823 札幌市中央区北3条西20丁目 北3条MMビル1F ☎(011)612-5010



るのだと思います。私の友達が親身になってサポートしてくれたのもそういうことから来ているのだと思います。

最後に、高校三大行事の写真をご紹介します。

これは、アビの日といって、卒業生、正しくは卒業試験受験生が最後の登校日を迎えると、このように仮装したりして一日学校で大騒ぎする。まちの外にも出たりするので、けれども、そうやって大騒ぎする日があります。毎年あります。

こちらは、先ほどのアビの日の次の日に毎年行われるダンスパーティーです。これもアビの日と同じで、全国一斉に同じ日に催される行事の一つです。このように、すごく豪華なドレスを着たり、男の子も正装して、ワルツや、チャチャチャとか、タンゴとか、いろんな種類のダンスを13曲ぐらい踊って披露します。

このダンスパーティーに参加するのは毎年高校2年生となっているのですが、私の高校は女の子の方が断然多かったのです。男の子は1年生の方から出されたり3年生の方から出されたりということはあるのですけれども、基本的に2年生が参加するというふうになっていま

す。

こちらは、卒業式の後に各家で開かれる卒業パーティーの写真なので、すけれども、卒業式のある日に、午前中に学校で卒業式、卒業証書授与などがあり、その後各卒業生の家でパーティーが開かれます。そのパーティーには、親戚や家族はもちろん集まって、それから親しい友人なども集まって、夜までずっとお祝いします。

学生帽みたいな白い帽子が卒業帽で、高校を卒業した人はみんな、その日はその帽子をかぶることになっています。なので高校卒業のあかしとなっています。

3年生のときにすごくたくさん友達卒業して、私も1日で8軒のパーティーに回ったりしたんですけれども、行くたびにシャンパンで乾杯するのは、8杯シャンパンを飲んで、最後の方は千鳥足になっていたりしたんですけれども、そんな習慣があります。

ありがとうございます。(拍手)
 それでは、早速、皆さん、いろいろ質問とかコメント、既にお読みいただいている方もおられるかもしませんが、どんなコメントでも結構です。どうぞ、お手を挙げてご発

言をいただきたいと思っています

思い出深い授業は

——質問が二つあるのですけれども、一つは、絵里香さんが、授業の中で一番思い出深い授業、それを教えてほしいなということと、あと、自分で思考する力をはぐくむ教育で、ディベートのことが先ほど挙げられていましたが、授業でテストというのはどういうふうになっているのかなということ。それも自分の意見を問うものがテストになるのかどうか。

それと、最後に、国の公式な高校卒業試験が年2回あるとおっしゃっていましたが、この試験と学校で行っている試験はどんなふう違うのか。それとも、そこも自分の思考を問うたりするものなのかどうかというところがちょっと興味があって。その2点を教えてください。

高橋 ありがとうございます。

思い出深い授業というのは幾つもある、それを挙げればいいかというふうになってしまうのです。いろいろありますけれども、4年生のときに生物の選択コースをとっていたのです。それは、フィンランドに生息する野鳥と植物を見分けようとい

う、そういうコースで、授業といっても、教室にいてもありませんけれども、まず、最初の授業で、押し花や剥製を並べて、最初の時点でどのくらい見分けられるかというのをテストして、先生が、このコースが終わるときには3割いい点をとるように頑張ろうというふうに言ってくれて。

私、最初、フィンランド語で鳥の名前とか植物の名前をほとんど知らなかったですから、何点かしかななくて、これでもし決まった合格点とかを与えられたら絶対私は合格できないかと思っていたのですけれども、先生が、それぞれが30%上げることができればそれでもいいというふうに言ってくくださったので、それで合格できたというか。

それがすごく印象的だったのと、あと、その授業で、実際に植物や野鳥を見にいこうと、しよっちゅう外に出かけてハイキングをしたんです。あるときは、森の中でたき火をたいてソーセージを焼いたりコーヒを飲んだりして、すっかり授業だということを忘れていました。それはすごく楽しかったです。

選択のコースだったので、興味のある人が集まっていたので、そうい



講演する高橋絵里香さん

う意味でも簡単に友達ができた授業
というかコースでしたし、それがす
ごく印象的です。

それから、テストの形なのです
れども、詳しくは本の方に書いてあ
るのですけれども、問題が結構短く
て、それに対して、すごくたくさん
文章を書いて答えるというふうにな
っています。私が中学生だったころ
を考えると、何文字以内でまとめな
さいとか、合っているものにマルを
しなさいとか、歴史だったら、何年
にこの出来事が起こったか、年号だ
け覚えていればマルだとか、そうい

うことではなくて、そういう暗記し
て覚えられるものではない、出来事
自体をトータルで理解していなけれ
ば答えられないような問題が多かっ
たように思います。

数学はまた別ですけども、特に
国語や社会、歴史などはそんなふう
な感じでした。

それから、高校卒業試験と期末試
験の違いですが、基本的には似てい
るかもしれませんが、問題形式など
は、でも、成績をあらわすのが、期
末試験だと数字なのでですけども、
高校卒業試験だと、ラテン語をもと
にした単語から来たアルファベット
で成績があらわされます。でも内容
的にはかなり近いものがあると思
います。

川崎 いかになんか一つずつ卒業試験を
クリアされていくかというのは、詳
しく本に書かれています。

私が印象に残っている本に書かれ
ている授業は、美術の授業、2色だ
けでという例が出てきましたよね。
あのお話をぜひ。創造性をいかにし
てはぐくむかという、あのお話を紹
介してください。皆さん興味深いと
思いますので。

高橋 1年生のときに受けた美術
の授業で、1年生のときだったから

言葉もよくわからなかったのですけ
れども、そんな私のために先生がす
ごくよく、わかりやすく教えてくれ
たりして。

それで、言葉の面以外でも、すこ
く抽象的だということに悩まされ
りしたんです。例えば、ある日は、
黒と白で表現できる世界をかきな
いと言われて、何をかいたらいいの
と言ったら、何でも好きなものをか
いたらいいというふうに言われて。
何でもいいと言われても何をかこ
うみたいなふうになつて。

でも、想像を膨らませて、それ
でかけたのですけれども、フィンラン
ドの高校の美術は、絵をかく技能よ
りも、想像力がないと何もできない
というか、想像力を必要とするんだ
なというふうに思いました。

川崎 私も創造性の育成にすこ
く関心があるのですが、そういう意味
でも、もちろん美術でもそうです
が、ほかの授業でもやっぱり、自分
の想像というか、自分の意見とい
うか、自分で考えて、自分で意見を持
って、自分で行動をするということ
が要求されているというような印象
を、今のお話を伺っても確信をしま
した。

それでは、次のご質問どうぞ。

D.Mの取扱いは、すべてSMS札幌メールサービスにおまかせ下さい。 あらゆるニーズに迅速にお応えいたします！

■ダイレクトメールの発送処理

- 宛名筆耕、宛名印刷
- ラベリングマシンによる宛名データ貼付
- 封入、封印 ●帯封掛
- 郵便料金減額作業
- 市内特別郵便の処理、各局発送
- リストカード作成
- 顧客カードの管理、保管
- その他、DM作業全般

■商品管理、梱包、発送

■サンプリング及び宅配

■リスト

■プレミアムキャンペーンの応募 郵便物の整理、集計及び発送

■街頭配布

■その他、セールスプロモーション のあらゆる作業をいたします。

ダイレクトメール総合代理店
SMS札幌メールサービス
☎065-0008 札幌市東区北8条東11丁目1番39号
☎(011)704-2111(代)
FAX(011)704-2121



つらかった日々

——私が初めて絵里香さんと会ったのは、小学校6年生のときにお父様につれられて北海道フィンランド協会を訪れたときで、それからもう本当に七、八年たちまして、当時、絵里香さんがお父様とフィンランド協会を訪れたときに、上司の専務と、何でそんなにフィンランドへ行きたいのだろうねなんて、本当に不思議に思っていましたけれども、きのうこの本を買って、ほとんど読んだのですけれども、でも、それでもまだ、私の中で、なぜ絵里香さんがそんなにフィンランドに行きたくて、それをご両親が非常に後押しをされていたというか、その辺がまだ余りよくわからなかったのですけれども、先ほどお父様のお話でよく納得できました。絵里香さんはとてもいいご両親を持たれて、本当にいい人生を歩まれているんだなと思いました。

ね。日本に比べると本当に人口も少なくて、そういう中で生活されたわけですけれども、1年目は本当に必死で、フィンランド語を覚えることに一生懸命だったようなのですけれども、その生活の中で、つらかったこととか、困ったこととか、何かそういうようなことがありましたら教えてください。

日本食が恋しく

高橋

余り思いつかないのですけれども、しいて言えば、私は日本食が結構好きなので、それが食べられなかったというのは。ちょっと恋しくなったりしましたね。寝ていたら急にみたらし団子のおいがしてきて、ここにはない、そんなものはと、そんなふうにも思ったりもしましたけれども、まず、フィンランドでは日本で手軽に入るような食材が余りないので。例えば、野菜の種類とかも日本に比べるとずっと少ないですし、果物などは輸入物が多いです。なので、作ろうとしてもできないことがあったりして、それがちょっと悲しいかなと思ったりはありましたけれども。でも、フィンランド料理もすごく好きなのが多いので、耐えられないほどではありません。

んでした。

——冬期間、乾燥しますけれども。

高橋

それは悩まされましたね。おふろがないのですけれども、サウナとシャワーで、シャワーの後、地面から水が全部蒸発してひび割れていくような、そんな感じがするほどの乾燥で、体じゅうに保湿をするクリームなどを塗らなくてはならなくなってしまう。それはちょっと悩まされましたね。

川崎

ありがとうございます。私は、この本を読ませていただきたい、やっぱりこの本は北海道出身の方でないと書けなかった本、書けなかった体験だと思っております。

きょう我々がいます北方圏センターは、フィンランドも含めて北欧との交流をずっと、30年ほどですか、お務めになってきましたし、北海道フィンランド協会も非常に活発です。それから、直接この高校を見つけていただいたのはラップランド大学の事務総長のリルベリさんという方だということが本にも書かれています。

こういう北方圏交流の成果があったからこそ、高橋絵里香さんも、フィンランドに留学できるチャンスがあったと思うのです。今回は、講談

社から全国の書店で発売されているのですが、まさしく、北海道発の日本全国に対する情報発信という意味で、北方圏交流の大きな成果と私は受け取りたいと思います。

絵里香さんの夢は

川崎 関連質問ですが、ご講演の中で、フィンランドでは高校生の時点で未来の計画を持っている。夢は現実のものである、夢は実現させるものであるというお話をされましたね。絵里香さんの未来の計画、実現させる夢をちょっと。

高橋 余りこれというふうには決まっていなくて、とにかく、とにかく小さいころから、まずフィンランドに行きたい、フィンランドで暮らしたいという大きな夢があったので、それがなかった今では、ちょっとほっとしている状態で。

今は、ムーミンとはまた別に、自然や生き物に興味があったので、そういうったものを将来もっと勉強して知りたいなというふうな思いがあった、でも、実際にどういう職業にそれが結びつくのだろうかというのでは、まだそれが定まっていないう状態です。

川崎 そのお話は、決まったら、



講演後、著書のサインに応じる高橋絵里香さん

ぜひ次の本のテーマにさせていただきたいと思っています。

川崎 それと、本の中でご紹介になつてゐる、必ずしも大学に行くことを急がない。卒業された同級生でも、いろんな生き方があつて急がないというご紹介をされてしまいましたね。あのお話をちよつとご説明いただくといいかと思うのですけれども。

高橋 急がないということですが、まず、高校を卒業しても、すぐに大学進学、専門学校進学というふうにしない人たちが結構フィン

ランドではいるのです。1年、どこかの学校にも行かずにゆっくり過ごすというか、そんな期間を、日本では浪人というのかもしれないですけども、わざと自分で、1年間、休憩ともいいますか、そういう時間をつくるのです。

そうすることで、もう一度自分が行く道を見つめ直したり、自分が本当に何をしたいのかというのを、例えば、その1年間の間に、海外旅行をしたり、アルバイトをして過ごしたり、または特に何もしないで過ごしたりしながら、そうしながら自分を見つめ直す時間に使っている人が結構多いです。

川崎 そういうことが許されるということですよ。

川崎 のんびりしているようでも、皆さんご存じのとおり、15歳児のOECDの国際学習到達度調査、PIISAではフィンランドがトップにランクされていると。もう少し詳しいお話をぜひ知りたいと思います。

皆さんまだまだ高橋絵里香さんにお聞きしたい質問がたくさんあると思いますが、とりあえず本を読んでもいただきたという気持ちも多いので、これからご希望の方には著書に

サインをしていただいてお買い求めいただくサイン会に入りたいと思います。

それで、少しお待ちいただく方もおられるかもしれませんが、その間に、高橋絵里香さんが好きなフィンランドの音楽をBGMで流していただけるそうですので、その音楽のご説明をお願いします。

高橋 私の好きなバンドの曲を勝手に選ばせていただいたのですけれども、これは、去年の10月、11月ごろにフィンランドで公開された新しいフィンランドの映画の主題歌になっている曲でもあるのです。その映画はフィンランドと中国の文化をうまく調合させたものがテーマになっているのですけれども、近々日本でも見られることになるのではないかなと思うので、機会があったらぜひごらんになってください。

川崎 本の中にも書かれているのですが、ご自分でも高橋絵里香さんは、フィンランドの高校でJagaimoという名前のバンドをつくつて演奏もされているのです。Jagaimoはフィンランド語ではヤガイモと発音するようですが、ぜひお読みいただきたいと思います。

営業ご案内

ご結婚内祝、お中元、ご出産内祝、ゴルフコンパ賞品、御祝、お慶喜、セールキャンペーン用品、快気祝、芸事発表会、訪販用品、社内の運動会、誕生日祝、展示会ご来場記念品、ごあいさつ用品、ご新築内祝、ご進学内祝、ご婚約記念、落成記念、永年勤続、忌明志、年末あいさつ用品、お買い上げ記念品、ご来店記念、誕生日祝、ご販売感謝

Gift Plaza 記念品の総合商社 株式会社美図濃
Premium & World Foods

札幌市中央区大通東7丁目水野ビル TEL:011-231-6612 FAX:011-271-1132

